

林下曹洞宗における相伝史料研究序説（四）

大安寺史料を中心にして（続）

飯塚 大展

はじめに

本稿では、前稿に引き続き、長野市七二会大安寺所蔵史料を紹介するものである。前稿では、嗣法をある意味で定義すると思われる『正法眼蔵嗣書卷』（以下『嗣書卷』）の受容という観点から、「嗣書卷」抄出を内容とする切紙の相伝を、また、「嗣書卷」が単独で相伝書として機能していたことを確認した。更に「酒瓶合血」を主要なテーマとする「嗣法論」を取り上げ、また嗣法の証明として機能した伝法偈の史料として、東土六祖西天二十八祖の『傳法偈下語』について大安寺所蔵本二種と駒澤大学図書館所蔵本とを比較対照した。本稿では、石屋派初伝の授戒関連史料を補足し、大安寺所蔵の切紙の史料翻刻を行いたいと思う。

一、

石屋派の相伝史料については、石川力山先生の研究があり、私も円応寺史料を中心にかつて論じてことがある。又、嗣

法儀礼に關しても、前稿においてその史料を紹介したが、以下の授戒関連史料を補足として追加する。

龍天授戒事

一、龍天授戒之時ハ者、師示シテ曰ク、復シ本形ニ而來。若シ復シ本形ヲ來ハ者、無レクシテ教授而可シ授レ之。

龍天授戒作法

一、龍天授戒ノ料紙者、水ニ鱗ノ之文、綾、六尺ニ用之也。同ク法被ハ者、端ノ紅梅ノ之四方、先ノ内錦蓮花ノ之文也。并打敷ハ者、ラセンレウノ綾、茜根染ノ裡用レ之也。曹洞家ノ大事ノ口傳在之也。可秘。

一、國皇授戒ノ事者、左右ノ大臣、劔ヲ拔イテ四方ニ立テ、刃ヲ外向テ持スル也。其ノ外ノ大臣等モ可シ警固。唐絹ノ紅縷ノ幕六幅、兩面ニシテ可シ懸ク云々。

國皇授戒作法

若シ在テ内裡ニ奉レテハ授ケ者、國皇ノ御座ハ左、東西向ニ設ケ別椅ヲ、教授・受戒、同ク用一座、以テ二師ノ作法ヲ奉レ授ケ、亦ク如レ常ノ人、

奉^レ授^ル事^ト在^ル之。此^レハ者、信心無二也。或ハ御入寺受戒時ハ者、
縱^シ雖^モ寺中^ニナリト、國皇^ノ之御座之間^ハ者、住持去^リ方丈^ヲ、為^シテ内裡^ト、
毎^レ上^ニ柱^ヲ以^テ黃紙^ヲ畫^レテ竜^ヲ可^ク押^レ之^也。住持去^リ方丈^ヲ、下^リ厨庫^ニ、
可^ク倚^ル宿^也。不^レ奉^ル同宿^也。相見^ル時^ハ人居^ル實位^ニ。受戒^ル時^ハ、纒外^ニ、
左右^ノ大臣、帶^テ御劔奉候^也。四方^ノ角^ニ燃^ル蠟燭^也。

一、戒法ノ料紙^ハ者、續貫^{六尺三寸}用^之也。又者絹^ヲ用^之也。

一、嗣法ノ料紙^ハ者、落地梅花^ノ文^ノ綾^{、六尺三寸}用^之也。

一、國皇授戒ノ料紙^ハ者、竹^ノ桐^ノ立文^ノ綾^{、六尺三寸}用^之也。并法
被^ル者、赤地^ノ小狐<sup>、四方一丈二尺ツ、柳^ノ裡^也。青色^ノ事^也。打
敷^{同^ク用^之也}。</sup>

文龜二年壬臘八日

宗誓授宗本

在拜

在家剃髮次第

戒文讀了后

・先向^レ東^ニ礼^ス國王[、]次^ニ礼^ス氏神[、]次^ニ礼^ス父[、]次^ニ礼^ス母[、]次^ニ礼^ス佛[、]次^ニ礼^ス師[、]次^ニ頂^ニ髮[、]左右^ニ刺^シ別^テ、
師取^テ剃刀^ヲ誦^シ偈^ヲ曰、善哉大丈夫、能^ク了^ス世無常、棄俗趣^ニ泥洹[、]
希有難思議、誦^ル偈間^ニ三拜。其后誦偈曰、流轉^ニ三界中[、]恩
愛不能斷、棄恩入無為、真實報恩者。師剃始^ニ令^シ他人^ヲ剃[、]
頂髮殘^ニ少^シ許[、]剃髮^ノ間[、]師唱^シ偈^ヲ、々^ニ曰、乃至菩薩^於生^ニ死[、]
最初發心^ノ時[、]一向^ニ求^ム菩提[、]堅固^ニ不^レ可^ク動[、]彼^ノ一念^ノ功德[、]
如來分別^シ說^キ、窮劫^ニ不^レ能^ク忘[、]剃髮^了三拜。本師再^テ
取^テ剃刀^ヲ誦^シ周羅偈^ヲ、々^々以前取^テ剃刀^ヲ捧^テ、偈^ニ云、最後^ノ一結、

誦^ル之^ハ周羅^ト。唯^ク佛^ケ一人[、]乃^ハ能^ク斷^ル之[、]我今除^去之[、]汝^チ
許^也否[、]答^テ曰^ハ許^ス。如^レ是[、]誦^ススレハ、答^テ曰^ハ許^ス。師取^テ
剃刀^ヲ、除^レ頂髮^ヲ時[、]先^ニ三拜。師誦^シ偈^ヲ曰、毀形守志節[、]
割愛無所親、出家求聖道、誓度一切衆[、]物^ノ之^ニ蓋[、]人^ノ子^{重^ク可^ク重^ク}、
受衣鉢法、直袂、坐具、袈裟、鉢盂、物^ノ之^ニ蓋[、]人^ノ子^{重^ク可^ク重^ク}、
也。

坐具

菩薩大士、一心念我弟子、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、信
男、信女、某甲、比尼師檀應量作、今受持常談衣故、

袈裟

菩薩大士、一心念我弟子、此僧伽梨、九條衣受、三長一
短、割截衣持、唱偈、々曰、大哉解脫服、無相福田衣、披
奉如來教、廣度諸衆生。披袈裟、三拜。

鉢盂

菩薩大士、一心念我弟子、同前、此鉢多羅應量器、今受持常
用故、三反了、礼三拜

七條

菩薩大士、一心念我弟子、同前、此鬱多羅七条衣受、兩長一
短、割截衣持、同前。

五条

菩薩大士、一心念我弟子、同前、此頭陀五条衣受、一長一短、
割截衣持、同前。

次受三皈戒并三聚淨戒也。

拈香ノ様子

・先^レ到^ル靈前ニ時、在^レ主位ニ立^ツ。維那出^テ班位ヲ、到^テ靈前ニ、
 獻^シ茶湯ヲ了^マ。至^テ拈香ノ師ノ前ニ、深ク問訊^シ而退^ル。師到^リ靈前ニ、
 普同問訊。々々ハ者、合掌^シ而打^テ一圓相^ヲ立^ツ。大衆中打時也。
 侍香以^テ片香ヲ、置^テ香合^ニ蓋^ヲ、依^テ師ノ右邊ニ捧^ク之^ヲ。師以^テ右手ヲ
 取^テ片香ヲ、拈^シ香ヲ出^シ語^ヲ。何事^ナ了^ル。侍者香合^ニ蓋^ヲ受^テ之^ヲ、
 到^テ香炉ノ前ニ、以^テ左手ヲ立^テ香ヲ退^ル。主人至^リ本尊ニ焼香三拜。后^ニ
 向^テ靈前ニ焼香。三步退^テ立^ツ。維那始^テ調絃^ス。

佛眼供養開光明

・先到^レ仏前ニ、師叉手^シ而立^ツ。侍者將^テ新硯^ヲ、研^ミ墨^ヲ、添^テ新
 筆ヲ、捧^ク于師ノ右邊。師把^テ筆ヲ染^シ墨^ニ、向^テ仏眼ニ点^シ三点。此時
 口傳在^レ之。洞家之秘深密也。退後焼香三拜。慈、心、良、尔、
 衆生畱永 日無一。

困邊 戒師引時自唱云

南無仏陀耶、南無達磨耶、南無僧伽耶、南無祖師菩薩。

次困 教授引時、師唱云 拈拂同之。

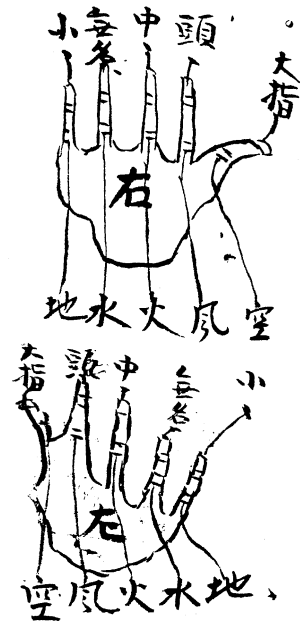
・我今盧舍那、方坐蓮花臺、周巾千花々、後現千釈迦。

椅子上 禾上唱云

衆生受仏戒、即入諸仏位、位同大覺已、真是諸仏子、

禪戒拜問記 永平和尚御答話

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)



拜問、立花如何。師云、立花ハ、梅松竹ノ三種也。今殊^ニ松
 ヲ立ルハ、年来立ツケテアル間、タシカ也。若^シ無^レ松世界ナラ
 ハ、或梅、或竹ヲモ立ルニ不^レ妨。是モ天地人ノ三根ヲ表セリ。
 言ハ、天地人ノ三種ヲラクコトハ、生仏ニ途ノアイニ、中位ヲ
 ヲケル謂也。若^シ無^レ中位レハ、生仏ヲ一^ニ接スル事ナシ。然
 間、天地人ノ三根ヲ表セリ。花瓶中虚ニシテ、三根ヲ接入セリ。
 拜問、續松如何。師云、續松者、仏ノ東方八千世界ヲ、眉間
 ノ白毫光ヲ以^テ被^レ照^ラ謂也。故戒師東方ニ向ヘリ。受者ハ、東方
 ニ顯現セリ。

拜問、洒水ノ順逆如何。師云、天闍地軸ノ謂也。丑^ノ方^ノ隅^ニヨリ、
 順^ニ向^テ進歩スルハ、地軸也。逆^ニ退歩スルハ、天地ニ闍謂也。
 天地人ヲ云時、順逆ノ間ニコモレリ。禾上モ受者モ皆々天地人
 ノ間ニ居セル人也。如^レ此^ノ時、天地人ノ三根ヲ接得スル也。三

即飯^レ一^ニ此^ノ時^ニ三根^ヲ一^ニ戒^ニ成^ス就^スル^ノ謂^也也。酒水^ヲ五^ノ刀^{ヨリ}始^ムル^{コト}ハ、五^ノ刀^ハ、大^ノ極^ノ卦^也也。全^ノ黒^ノ卦^也也。世界^ノヲ^コル^初ハ、大^ノ極^{ヨリ}始^也也。布^薩ノ^洒水^ハ、未^申ヨ^リ始^也也。言^ハ、世界^起テ、上^ニ有^レ仏、下^ニ有^レ衆^生ト^定時[、]上^{ヨリ}下^ヲ化^スル^時、如^レ此^ノ行^持アリ。

拜^問、和尚^上ノ^洒水^如何。師^云、和尚^自ラ^ノ頂^ニ洒^スル^{コト}ハ、和尚^{ヨリ}流^出ス^ル底^ノ智^水也。又^是ヲ^自ラ^ノ頂^ニ洒^スル^{コト}ハ、自^ニ飯^スル^ノ謂^也也。出^入ヲ^自在^ニス^ル謂^也也。次^受者^ノソ、ク^トハ、三^毒ヲ^澡浴^シテ、純^一清^淨ナ^ラシ^ムル^謂也。次^左、次^右ニ^ソ、ク^ハ、是^十方^ノ諸^仏菩^薩ニ^ソ、キ、一^順清^淨ナ^ラシ^メテ、其^ノ「^一」松^枝ヲ^血水^ニ合^テ、仏^衆生^ヲ和^合セ^シム^ル也。血^水ハ、酒^瓶水^也。酒^瓶ニ^三種^ノ物^ヲ入^タリ。所^謂松^枝・香^水・乳^水ト^也。天^地人^ヲ和^合セ^シム^ル謂^也也。此^ノ時[、]戒^体成^就ス^ル也。此^ノ時[、]諸^仏ノ^血氣^ト与^衆生^ノ血^氣和^合也。其^后戒^文ヲ^評ス。戒^文ヲ^評ス^ル時[、]三^飯ノ^分ハ、持^也否^ヤト^ハ云^ハス^シテ、和^尚南^無飯^依仏^ト誦^スレ^ハ、受^者即^南無^飯依^仏ト^誦ス。是^即羯^磨也。評^スル^ニ順^ス。三^飯者[、]三^種無^三、三^宝一^價、是^ヲ飯^依相^ト称^スト^云ヘ^リ。言^ハ、此^ノ三^飯ハ、性^德ノ^羯磨^也。理^戒、此^ノ性^德ノ^羯磨^{ヨリ}出^生ス。三^聚淨^戒ノ^分ニ^テハ、此^ノ事^能持^也否^ヤト^云、是^レ事^戒ノ^羯磨^也。十^重禁^ノ分^ニテ^ハ、此^ノ戒^能持^ヤ否^ヤト^云エ^リ。事^戒・理^戒共[、]性^德戒^{ヨリ}出^生ス^ル謂^也也。三^飯戒^ヲ誦^シ上^テ、受^者ヲ^戒内^ノ人^トナ^シテ、理^事ノ^戒ヲ^授也。三^飯

戒者、事理ヲ超越セル一段ノ風流也。不^取正^戒相^ヲ、亦^無邪^念ノ^心、是^ヲ名^ク清^淨戒^ト云^エリ。

永平開山道元和尚御問答集。

異類授戒、神人化度の問題、就中護法善神とされる龍天授戒關係切紙は、石屋派においても早くから相伝されており、門参としても拈提されてきた。又、國王授戒切紙は、当時の尊卑(貴賤)觀念、淨穢觀念の一端を知る貴重な資料である。「禪戒拜問記」は、永平道元和尚に擬せらる、授戒における儀礼についての教義問答とも言えるものである。これら授戒に関する切紙史料は、自派の自己同定、帰屬意識を確認するものとは異なり、対社会的な意味を濃厚に持つものであり、当時における宗教意識を考える上でも重要なものと思われる。

註

(1) 拙稿「林下曹洞宗における相伝史料研究序説(三)」大

安寺史料を中心にして、「駒澤大学佛教学部研

究紀要」第六七号、二〇〇九・三)

(2) 石川力山「肥前円応寺所蔵の門参資料」(『印度学仏教学研究

究」二九卷二号、一九八一・三)

同 右「肥前円応寺所蔵の大善和尚法語」について(『宗学

研究」第二号、一九八〇・三)

同 右「峨山和尚誦抄」自得碑録」について(『宗教学論集」

第九輯、一九七九・三)

同 右「肥前円応寺所蔵の『山雲海月圖』について」(『曹洞

宗研究員研究生研究紀要』第二号、一九七九・八)

同 右「巖山和尚・山雲海月」について(『日本印度学仏教学研究』二八卷三号、一九八〇・三)

拙稿「円応寺所蔵の抄物資料について」(『宗学研究』第四〇号、一九九八・三)

同 右「円応寺蔵・山雲海月圖」について(『曹洞宗研究員研究紀要』第二九号、一九九八・一二)

同 右「中世曹洞宗における本参資料研究序説(一)」(『三(三)「禅学研究」第七六号、一九九八・三、駒澤大学佛教学部研究紀要』第五七号、一九九九・三、駒澤大学佛教学部集』第三〇号、一九九九・一〇)

松田陽志・桐野好覚・若永正晴・飯塚大展「山雲海月」研究序説(『曹洞宗研究員研究紀要』一一号、一九九八・一〇)

二、「榮西僧正記文」

私は、道元像の再構築こそが、中世後期における林下曹洞宗の教学の重要な課題であったと考えている。またそれは、道元の同時代に生きた禅者をその関係性において、どのように評価して行くかという問題も包摂するものである。それは例えば日本達磨宗の位置づけであり、特に切紙に関連して言えば、臨済宗系統の戒脈・嗣法の正当性の問題と結びつく物である。ここでは、一例として榮西をどのように位置づけたかと言つことを少しく考えてみたい。

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

『正法眼蔵』や『正法眼蔵随聞記』には見られない切紙史料における榮西像をどう理解すべきなのか、叶わないと思うがこの機会を、その端緒としたい。『正法眼蔵随聞記』には、榮西関連記事も比較的多く見られる。慈円の『愚管抄』巻六に見える権勢欲に駆られた榮西像とは異なり、真撃に弟子と向い合う厳格な指導者としての榮西が共感と思慕をもって語られている。例えば衣食の問題を介して榮西とその弟子が対立する構図、巻一(14)や巻三(9)の說話などは、榮西の言動に多くの言葉を費やす、無住道暎の『沙石集』や虎関師練の『元亨釈書』には見られないものである。道元が参じた、明全(一一八五—一二二五)が先師妙融の末期の看病を辞して入宋した記事は、彼の地で客死した明全の遺骨を建仁寺に埋葬した事を記す『舍利相伝記』と共に注目すべきである。外にも嘉禎二年(一二三六)二月三〇日、懷奘が興聖寺最初の首座に任せられ、秉弘の儀式を行った記事等が注目される。

「榮西僧正記文」の切紙の成立は比較的古い部類に入り、中世成立の「切紙目録」の中に見出すことができる。駒澤大学図書館所蔵『室中切紙』(寛永十九年書写)所収「嗣書諸目録之切紙」(永正十三年(一一五二)十二月十三日の年記あり)には、「榮西記文 一枚紙也」とあり、天正二十年(一五九二)の年記を持つ長野県徳雲寺所蔵「切紙目録」にも、「榮西記文録」と見える。又、永光寺所蔵「截紙之目録」

(寛永年間、万山林 臨 松写)には、「榮西記文録 光明ノ
 図トモ云也」とある。永平寺所蔵「切紙目録」(嶺巖英峻書
 写)にもその名が見えるが、又別に「懷敞記文」なる切紙の
 名が記されており、この切紙は未見であるが、その内容が
 「榮西記文」と関連を持つものではないかと推定される。

内容は、大きく前半と後半とに二分される。前半は、虚庵
 懷敞との關係を含めて榮西に関する記述が中心であり、その
 記録が榮西 明全 道元と相伝したことを記す。それは同時
 に臨濟下の血脈の相伝をも意味している。後半は、この切紙
 の曹洞宗内における相伝の由来を述べる。本史料には記され
 ていないが、別本によれば、その由来を語るのは瑩山紹瑾で
 あり、義演の夢告によるとして、道元の再来たる瑩山が当て
 られている。

以下に、「榮西僧正記文」の本文を翻刻し、簡単な注を付
 してみたと思う。私は、今後切紙史料の翻刻を中心に相伝
 史料の研究を行うつもりだが、並行してその注釈的研究も行
 いたいと考えている。

【史料(1)「榮西僧正記文」切紙】

1000 「榮西僧正記文」切紙

(端裏) 榮西記文

榮西僧正記文

榮西求レ法ヲ為シ懷ニ、欲レ征ニ西ノ乾ニ、生ニ季ニ二十八歳渡海入リ
 唐ニ、彼國ハ佛法特盛ニシマ、王公相將皆テ歸シ佛道ニ、見テ此ノ風
 規ヲ隨喜銘レ肝ヲ、其年秋、間歸國、後ニ再入レ宋ニ參シ善知識ヲ、
 聊サ隨テ臨濟ノ、之宗風ヲ、兼テ善ニ五家ノ公案ヲ、駐シ錫ヲルコト大
 白ニ、始終ニ五季ヲ、于時ニ虛庵懷敞ノ禪師ヲ為シ當リ寺ノ之當頭ト、々々禮シ
 為シ傳法ノ之宗師ト、是乃例也也。遂ニ歸ニ日本ニ、建立シ三箇寺院ヲ、
 潛カ弘ニ通於ニ祖師ノ之道ニ、然而未ク廣博傳授シ、所以ニ時節未
 到也。時節若シ到ラハ、大法自然ニ行焉ヲ。宋ニ西建立シ三箇寺ヲ、
 建仁寺、聖福寺、壽福寺、專志ニ禪宗ヲ。但鐘ヲ撞キ未レ遇シ所以
 不レ遠ニ響ニ而已也。此ノ三所ノ寺院、顯密交變興廢ノ代謝者、
 暫俟レ時也。雖然如レ是、始終應レ歸レ禪ニ、宗一門ニ、是則榮
 西多生ノ之願念也。榮西在世之間、結縁ノ之道俗助成也。道ヲ弘
 傳ニ吾朝ニ、彼時國王大臣歸シ信ス此宗ニ、興シ陵ニ此宗ヲ、其
 時明心悟道之人、充ニ滿ニ於ニ朝野ニ、榮西門人ハ以テ清淨修行ヲ為シ
 業ト、以テ三衣一鉢ヲ為シ所持ト、永ク拋シ名利之輩ヲ、當ニ為シ傳持シ
 大道之祖、違レ之ヲ、非ス吾カ弟子ト。應シ知、榮西去レ世ニ後五十
 年、以后大道盛リ於ニ日本國ニ焉ト、悉知々々、或依テ應ル真ニ之
 符迹、或得テ上天ノ之吉ヲ記レ之、于時建保二年甲戌正月二日、
 榮西錄シ与ニ門人明全ニ、在判、大宋寶慶元年乙酉五月廿四日、
 明全傳ニ道元ニ、在判、此記文者、永平開山和尚諸宗血脉所ニ
 加納スル也。今正和四季乙卯八月七日寫シ之、先師傳戒本師演和
 尚之遺物也。演公入滅之后、奈々夢中ニ垂示シ在シ之、其中正

和四」季七月廿九日垂示曰、予ガ以先師開山之嗣書等之血脉ヲ授与シ渡ル事者ハ、開山示云、此嗣書」等悉ク是御邊先生之所持ス物也。開山曰、御邊者ハ再来也。即不ニ他物ニ、總シテ可シ与」レ授之。垂示承之ヲ、予不レ知所「以禅眼渡レ之。予頗人也。御身本生也。仍紹瑾開此レヲ書ク、」等礼拜同礼拜人。紹瑾ハ老眼、素哲ハ眼可シ並立。重ニ坐具而礼拜、奉レ拜共。条々雖レ有「ト、子細不記之。為後日記之。正記文、應真之吉符合レ之間、今寫ニ此記文」也。太乘第二代」瑩山紹瑾在判。嫡々相承而吾附右此書、嫡子可レ附一人。若シ授ニ与二人、瞎却佛祖眼睛者」也。右此書者、從「前代」虚紙半書者也。」

注

- (1) 西乾……西乾(せいけん)は、『祖庭事苑』によれば、「乾」は乾坤の乾(天)の意であり、西方天空即ちインドを意味する。『興禅護国論』に、「初め、行在臨安府に至つて、安撫侍郎に謁し、西乾経遊の情を覆す」と見える。
- (2) 生年二十八歳渡海入唐……荣西は、仁安三年(一一六八)四月商船に便乗して入宋し、五月には天台山上に登っている。
- (3) 其年秋間帰国……仁安三年(一一六八)九月重源と共に帰国する(異説有)。『興禅護国論』に、「宋の乾道四年戊子の歳なり。すなわち秋に及んで帰朝す」と見える。
- (4) 後再入宋参善知識……文治三年(一一八七)三月再度入宋し、インドに赴こうとするが果たせず、後に天台山万年寺に虚庵

懐散に参学することになる。ここでは、その間に他の禅の指導者達にも参じたとする。

- (5) 五家之公案……「五家」は、禅宗の宗派、即ち「法眼宗」、「臨濟宗」、「僕仰宗」、「雲門宗」、「曹洞宗」の五つを言う。当時伝えられていた禅宗の公案をすべて体得した、の意。

- (6) 駐錫太白……「太白」は、明州慶元府にある太白山天童景德禅寺を言う。荣西は、天台山から、虚庵に随つて太白山に移つた。

- (7) 虚庵懐散……生没年不詳。臨濟宗黄龍派に属する。伝記は、荣西との関係において知られるばかりであり、『黄龍十世録』によれば、天童寺において示寂し、鞞摩の風があつたとする。

- (8) 荣西三箇寺……荣西を開山とする三つの寺。建久六年(一一九五)博多に安国山聖福寺を建立し、ついで正治元年(一一九〇)鎌倉に龜谷山金剛寿福禅寺を建立、建仁二年(一一二〇)京都に東山建仁禅寺を建立したとされる。『沙石集』巻十末に、「鎮西ノ聖福寺、洛陽ノ建仁寺、関東寿福寺、彼ノ草創ノ禅院ノ始ナリ」とある。

- (9) 但鐘撞未遇……鐘と撞木(つき棒)が相応していないので、鐘の音が遠くまで響かないの意。荣西の伝えた黄龍派(禅宗)の教えが時機に相応しなかつたので、その教えは広範囲には及ばなかつた。

- (10) 顕密交変興廃代謝者……「顕密」は、顕教と密教、ここでは禅宗以外の教えを言う。荣西は叡山において天台の教え(法華三大部を中心とする)と共に密教(台密)を学び、葉上流の祖とされる。荣西には、仏教者として多様な側面を持つていたことから、これら三箇寺においては、禅宗以外の教えが

説かれることも多かった。しかし、それは方便であり、時機の至るのを待っていたのだとする。『沙石集』に、「然ドモ、國ノ風儀ニソムカズシテ、戒門・天台・真言ナンドカネテ、一向ノ唐様ヲ行ゼラレズ。時ヲ待ツ故ニヤ。深キ心アルベシ。殊ニ八真言ヲ面トシテ、禪門八内行ナリキ」とある。

(11) 宋西去世後五十年……『興禅護國論』に付されている「未来記」に、「予、世を去るの後、此の宗最も興るべし」とあり、ここでは禅宗を興隆するのは道元であるとの譏記(予言)の意味を持たせているように思える。

(12) 依心真之示、得上天之告記之……「応真」は、阿羅漢の意であるが、永光寺所蔵「宋西記文」(吞良書写)には、傍注として、「応真トハ、護法神ノコト也」と見える。護法神のお示しによって、天上よりのお告げを得て記した、の意か。

(13) 于時建保二年……宋西が虚庵より戒脈を伝受しこれを朝野に広むべきことを記録した。「宋西記文」を、建保二年(一二二四)明全に与えたとする。

(14) 大宋宝慶元年……「宋西記文」は更に宝慶元年(一二二六)五月二十四日に明全より道元へ伝えられたとする。別本の切紙は大概「明全伝道元」に作る。今日曹洞宗で用いられている血脈は、南嶽下虚庵懐敵、宋西、明全、道元と伝えられた臨濟下の禅戒と、如淨より道元に授けられた曹洞下の両系統を併記した戒脈となっているが、この形態が嗣書同様に道元の時代にすでに確立していたかは明らかでない。文暦二年(一二三五)八月十五日、当時興聖寺にあった道元より理観に戒法が授けられ、原本は散佚したが、その写しが永平寺に所蔵されており、「授理観戒脈」と称されている。因みにその奥

書には、「予昔幼受業於叡岳、長垂誦於両師、至老年征斯那、投台嶺敵禅師、重誦於吾薩戒、今以舍那七仏之三師脈、宋西接而与授明全、明全授道元、道元授理観輩、若非梵行人帯衣鉢者、莫授与矣、
文暦二年乙未八月十五日 道元示」

とある。

(15) 此記文者……「宋西記文」の切紙の相伝の由来が述べられている。この切紙は、道元の諸宗血脉の一つとして相伝されており、正和四年(一一三五)八月七日、鑿山紹瑾が伝戒の本師義演の遺物中より書写したものと云う。永光寺所蔵「宋西記文」では、さらに明峰素哲に書写せしめたとして、「仍紹瑾左、素哲右脇可並立、重坐具而礼拜奉拜具、条々雖在子細不記之、為後記之、僧正記文、応真之告符之間、令写此記文也、

大乘第二代 鑿山紹瑾 在判

吞良書之者也
(花押)

とある。

(16) 演公入滅之後……義演は、正和三年(一一三四)十月一六日報恩寺にて示寂した。

(17) 条々夢中垂示在之……義演は、示寂後も鑿山の夢の中に現れ、いくつかの教えを説いた。その一つが「正和四年七月二十九日垂示」であり、「開山嗣祖等之血脈」を授与することは、開山道元のお示しに由っている。それら嗣書等は、本来「御辺先生」の所持すべきものであり、「御辺」とは、道元の再来であるとする。

(18) 予領人也……別本はいずれも「預人」に作る。
(19) 御辺身本主也……「御辺身」は或いは「御辺者」の錯りか。

三、大安寺所蔵切紙史料翻刻

【史料(2)「嗣書袋圖說」切紙】

0002 「嗣書袋圖說」切紙

(端裏書)「嗣書袋圖說」

嗣書血脉之袋、縫_ミ有_レ法。豎_ハ六寸横_ハ四寸有_リ表背。八纏_ハ下_ニ在_リ卍字_等。卍字順_ニ可_シ縫。四纏_ハ表背_上有_リ。四纏_ハ背_中ノ座在_リ。八纏_ハ兩_ノ脇_ニ有_リ緒。乃_チ四_ツ緒也。此袋_ハ嗣書・血脉、同_ク嗣書_ノ儀計_リ可_シ入_ル。餘_ノ物_ハ不_レ可_シ護持_ス。袋_ニセ_テヘ_ン有_リ、入_テ括_ヲ以_テ可_シ収。卍字_ハ胸_ニ尊佛也。八纏_ハ表_ニ八色_ノ書。四_ツ緒_ハ四天王也。括_ヲ授_ニ一心_ニ中_ニ座_ラ根本_ニ定_ル也。此_等ハ七_ノ佛傳法_ノ儀式也。末_ヲ曾_テ見_ル事也。如_レ是_レ錦_ノ袋_ヲ縫_マ、其_中ニ嗣書_ヲ赤_キ色_ノ絹_ニ包_ム、其_上黄色_ノ絹_ニ包_ム也。如_レ是_レ収_テ、焼香_ヲ礼拜_ヲ百拜_{シテ}可_シ入_レ之_ヲ。若_シ得_テ嗣法_ヲ者、乃_チ可_シ開_ク。容易_ニ不_レ可_シ開。如_レ是_レ袋_ヲ三會_ニ縫_テ可_シ包_ム。一儀記教授戒文自傳_レ之_ヲ。家訓_等ヲ別_ニ袋_ヲ縫_テ可_シ入_レ法衣。環_間ニ嗣書_ヲ可_シ包_ム。法衣_モ袋_モ慰勲_ニ四纏_ノ字_ヲ可_シ整。但_シ大小_可依_レ法衣。金地_ノ錦_本也。嗣書_ハ椶_綾、白_キ可_シ書。曹溪_ト与_ニ青原_合血_ノ因緣、是_レ又_タ末_ヲ曾_テ聞_ル事也。日本永平開山元和尚、建長五年之春記_{シテ}之_ヲ傳授也。」

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

于時弘治二年丙辰

【史料(3)「没後作僧偈」切紙】

0003 「没後作僧偈」切紙

没後作僧偈云、佛_ク言_ク但_ク以_テ衆法_ヲ合_ニ成_ス此_ノ身。起_ル時_キ唯_ク法起_ル、滅_ル時_キ唯_ク法滅_ル。此_ノ法起_ル時_キ不_レ言_シ我_レ起_ル、此_ノ法滅_ル時_キ不_レ言_シ我_レ滅_ス。前念_ハ後念念_不ニ_ス相待_セ、前法後法_不ニ_ス相對_ス。是_レ即_チ名_ヲテ_テ海印_ニ三昧_ニ。即切紙也。付与祖透沙門

前永平雲庵叟

舜嶺老衲 (花押)

皆天正_{乙卯}季中秋初五日

【史料(4)「俱胝一指本則」切紙】

0004 「俱胝一指本則」切紙

(端裏書)「俱胝一指本則」

俱胝和尚嗣續_シ天龍_ノ法_ヲ。晝_ハ天_ニ山_ノ麓_ニ下_ル時_ニ、白_衣ノ老翁_{向_テレ師_ニ身_ヲ、路邊_ニ寄_ス。師云、阿誰_ヲ。老人_{答_テ云}、吾_レ此_ノ當_山經_テ年_ヲ守_レ法_ヲ、度_ル人_ヲ者_也。師云、得_テ吾_レ天龍_ノ法_ヲ、万里_ノ外_ニ去_ル。此_ノ内_有リ_險路_ニ、願_ハ護_レ我_ヲ。老人_{変_ニテ}前_{形_ヲ送_ル途_中。一_ノ角_ノ童_女問_レ師_ニ、如何_シ是_レ天龍_一指_頭ノ_禪。師_{豎_ニ一指_ヲ。一_ノ童_女復_テ問_ク、似_テ老_猿水_底月_ヲ取_ル。師云、一_ノ指_{擧_ス處}。}}}

水月ニ俱ニ泯絶。童女」作レ礼ヲ返。師云、汝チ會ニテ何邊事一
作レ礼。童女答テ云々。百合。師欲スルニ礼渠。忽チ「蔵身。老
人モ亦蔵シ身ヲ没ニス蹤跡」

曹山云、一指頭ノ禪、紅爐上如ニシ一点ノ雪。」「天童覺云、
以ニ思無思妙ヲ返ニ思靈燄之無キ窮。雲門云、折脚井一」
指頭ノ禪、兩レ俱ニ忘却。法眼禪師注シテ云、飛鴻如ニ雪泥ヲ
蹈カ。諸老宿雖モ「拈得」ト、千里万里、好客如ニ看レ夢相似。

俱貶廣鑑録在之。

此ノ録、濟家ノ明全和尚依ニ焼却、洞家無シ之ノ書。有ニ合血
因縁、嗣法傳「授之人」ト可ニ拜看ノ者也。退歩就レ己。無極惠
徹。在判」

宣天正七^{己卯}歲南呂吉旦(花押)

【史料(5)「知死期切紙」(仮題)】

0005「知死期切紙」

「縮縦道」

達磨大師云、生死事大、無常迅速、汝チ還テ識得也。」「惠可
涕淚悲泣シテ云、吾レ未レ會。唯々願ハ大慈大」悲開テ甘露ノ妙門、
救ニ我カ昏瞶。師夜半ニ點ニ松火ヲ、「此ノ以ニ妙偈ヲ示シテ云、汝チ
聞ニ思修。惠以能ク護持。嗣ニ續ス吾カ宗。云々、南山月白、
元來水寒」

偈曰、「

ワ^{ハガ}纒^ニ覺^ニ玉池^ニ無^キコトヲ滴瀝^キ。次ニ於テ波底ニ取ル^ル神光。」「無常ハ須レ
聽ク體頭^ク、得レテ數ヲ方ニ知^ル。幾日ニカ亡セン。」「
極月晦日暮間亦寅剋。」「行者向テ西方ニ弥陀ノ咒、」諸經看經動
修如ク受カ會取セ。

初祖達磨示ス惠可「法可レ秘。

舜嶺老衲 (花押)

付与祖透

于時天正七^{己卯}八月初五日夜半

【史料(6)「血脉最極無上事」切紙】

0006血脉最極無上事切紙

(端裏書)「血脉最極無上事」

佛祖正傳菩薩戒血脉最極無上事

夫血脉ト者ハ何^{ソヤ}也。従前佛祖之血脉與ニ強識迷情之衆生ノ血
脉、本來無ニ而平等「一味ノ正躰也。」「佛祖悟ルカ故ニ本有、
覺月明々ト而無シ曇。凡夫迷カ故ニ暗々シテ、蔽レ光リ。迷情ノ凡
夫受ニ此ノ菩薩戒ヲ時キ、塵垢忽チ尽テ靈光始テ現ス。是ノ故ニ言ワ衆
生受テ佛戒ヲ即チ入ル諸佛ノ位ニ。位同ニ大覺ノ佛位ニ。真ニ是レ受ニ
佛子。以ニ此ノ理ヲ於テ道場ニ登ス受者於法座ニ。戒師禮ス之ヲ。」「
是レ便チ本下迹高々成道也。受者礼ス師ヲ。是便本高迹下成道也。
戒師授レ之。受「者受レ之。師度ニス血脉。受者請レ取レ之。」「
本迹俱下成道也。授了テ後、師受「者同ク共ニ出シ道場。是便

本迹俱高成道也。頂上ノ圖相便チ是レ衆生本有ノ心ノ月輪ナリ。謂レ之ヲ血脉ト。故ニ上下ニ釣レテ之ヲ以テ表ス師弟平等之鉢ト。以テ五色ノ絲ヲ縛レ之。衆生本有而具ス五智ノ妙徳ヲ不レガ知レ此理ヲ故ニ染テ五濁煩惱ノ淤泥ニ蔵テ五佛之正ノ因ヲ依テ之違テ五星ニ下違テ五岳ニ中違テ五常ニ日夜晨夕積ツム惡業之因縁。故ニ違テ三宝諸天之靈鑑ニ雖レモ然ト修シ勇猛精進ノ之妙行ヲ以テ六根清淨ノ身ヲ受ル佛祖最極之金剛宝戒ノ時ニ五濁頓證戒ニ五智本有ノ覺體ヲ五色ノ名ニ雖モ各別ト覺體ハ無ニ無別也。故ニ合テ五色ノ絲ヲ縛レ之。次ニ九穴ノ縛レ之。所詮八万四千ノ陀羅尼門、八万四千塵門、畢竟善惡不二、邪正一如ニ如シテ皈ス九識圓滿之法體ト。以テ九穴ヲ表レ之。合ノ字者ハ九識圓滿之田地以テ宗旨ト。言レ之ヲ則君臣合道ノ時ノ節、草芥人情ト與ニ非情ト畢竟皈ニ炭裡ニ坐。於レ此ニ一字作ル三字ト則ンハ人一口也。夫レ人ハ以テ一口ヲ喫シ物ヲ續ク命。此一段之血脉、以テ之續ク佛祖ノ惠命ト。佛以テ一口ヲ轉シテ無上ノ法輪ヲ救テ大小權實ノ群品ト。禪將一口ニ拔ク天下ノ袖子ノ釘樞ト。乃至朝ノ夕内外ノ事業、何事カ非ニ口ノ所作ニ乎。此ノ外合ノ字之商量多端也。可ニ傳附ノ者也。右此ノ相傳者、吾朝本元祖受テ洛之建仁開山之指南ノ度レ宋ニ入テ天童ノ淨禪師堂奥ニ參學事畢。將ニ欲ニ皈朝ニ奉レ請レ暇時、師云、暫ク莫レ早々ナルト。有ニ佛ノ祖最極之大事、以テ事罕ニ未ニ你ニ許レ之。時正至、你ハ是深大秘要也。頂戴シテ之ヲ、皈ニ扶ニ桑ニ、可レ利ニ群品ト。元禪師謹テ承テ尊命ヲ留

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

月余、既ニ頂戴畢。皈朝濟ス善ノ惡尊卑之迷情、佛祖大事何物如ク之ニ耶。可秘。

正玄(花押)

于時天正七己卯八月吉旦

附祖透禪伯

【史料(7)「月兩個」切紙】

〇〇〇月兩個切紙

總持二代巖山碩和尚、因ニ開山既月次テ問テ師云、知三月ニ有ニ兩個ノ麼。師云、不レ知。山云、不レ知ニ兩個ノ月者、不レ能為ニ洞上ノ種草ト。師從リ茲ニ三季勵ス志、晝夜無レ指。然而十二月二十三半夜、師待ツ山ニ徘徊シテ庭上ニ月ヲ東嶺一天清朗。師只ニ低頭シテ深ク入ル工夫ニ味。山顧テ云、你不ニ揚眉瞬目ナラ者シ矣。師猶不レ擡頭。山就テ師ノ耳畔ニ彈指一下。師仰面而ニ見シ月ヲ忽然大悟シテ云、唯。山乃與ニ一掌ニ云、你作麼生カ會。師云、將ニ謂ニ石胎蛇、即是蛇胎石。山云、請子細ニ看。師云、從前百千公案、譬エハ三萬波ノ皈レ海。山重テ一掌ニ云、這ノ話即今方ニ當頭ト。台宗叢祖之下ニ身體之沙汰、妄想法性ヲ脱却シテ以テ來々以テ是喻テ教外別傳之旨。以ニ我得処ヲ嘲レ他ヲ。嗚呼、慚愧々々。山和尚之一笑、桃花咲ニ暖氣ニ意也。於レ此妄想ノ作用瓦解水消ル而已。其妄想ト云ハ、本有本分、一理ヲ明。其理ト云ハ、地水火

風・六根・六識・六和合、轉々作用ノ沙汰也。雖レ然我全、山和」尚」會裡ニ於テ無シ一句ノ省処、况ニ於テ大悟ニ平。一日某甲咨シテ山和尚ニ呈ス諸解ヲ。離ニ六根六識ヲ。一氣不レ通処、大極ハ元ト無極ト參見ス。山和尚云、言「コトハ不レ道、如何是道。某甲忽然有リ省処、欲レ開レト。口ヲ。山云、不レ是。蓋其省処ト云ハ錯也。山云、於レ此間二两个月、某甲全ク不レ知。子細ニ見得、内外玲瓏トシテ無シ」曇。弄シテ是ヲ為レ曇。山和尚一彈指シテ、此曇ヲ拂也。某甲忽然トシテ大悟ト云ハ、忝ッテ山和尚之面上ニ膾ヲ吐キ懸マ、突兀トシテ立ツ、如ニ「岩石」不レ動。山和尚云、石胎蛇ノ意旨如何。某甲昔年憶得、石胎蛇、今日」憶得、蛇胎石。山則證明。石胎蛇」本意ト云ハ、山和尚ハ蛇ノ季ノ人ヲマシマセバ、蛇也。紹碩」一方石也。然間々、小見解ノ時ハ、胎レテ山、我ガ胎中從リ出生タルト思イナス。省処大悟以來々、子細ニ見得來、上ハ上、下ハ下、去間、蛇」子石ヲ生、心得也。向後為ニ我兒孫ニ者ハ、省処無レ端時節、父母モ無ク、釈迦・達磨モ無ク、天地モ」無シト見届ケテ后ハ、父母ハ是父母、釈迦・達磨是釈迦・達磨、天地ハ天地ト可レ心得。後代之子孫莫レ」迷テ差路」ト置文大悟ノ巻、石蛇ノ話・兩個ノ月、永劫ニ難シ見得。若シ又見得スル共、本意不十」成是佛祖ノ骨髓也。可レ秘々々。某甲巻外ニ有レ摺、各ノ有ニ參話、不レ依ニ先達」一句透得、旨有リ麼。都合七枚ノ切紙、嗣書与裏、袋之内ニ収也。何人有リ共、頭自一人」外ニ不レ可レ傳」授者也。於レ后代朝々暮々不レ可レ離身、

云云。」

補陀開山無極徹和尚攀シテ此話ヲ示レ師。々尽ニ平生ノ伎倆ヲ去參シ來、久ク不レ適ハ。一夜至ニ更」深ルミ、入室。丈室黑シ矣。傍僧点レ燭。師一見而忽然大悟。高声云、兩個現ス矣。庵云、作麼生。師云、不レ勞再攀。庵云、近前來。師乃近前、礼三拜。庵云、峨山祖翁」之后、這」話、徹待者實ニ徹セリ矣。猶如ク大極之無レ極也。至明日、自」居シテ道」話ノ厓書ヲ而附レテ師云、子」以レ」無レ極為ニ雅稱ト。古者、皆」以レ得処」号ニ播芳ト、焉故ニ称」道号ト而已。」

惠明、白輪也。無極、黒輪也。黑白合シテ時、師弟一般、兼中到也。」

附与庵闍

于時天正十九季年雪月吉日 前住長泉七世木雲曹沉(花押)

【史料(8)】太白峰記之嗣法合血圖「切紙」

0008 太白峰記之嗣法合血圖切紙

「合血之切紙」(端裏書)

太白峰記之嗣法合血圖 永平老衲 義雲編

夫嗣法ト者ハ、佛性種熟之義、惠命嗣續之儀、正法調御之儀、眼目周正之儀、道躰一如ノ儀也。所以者何、釈迦ハ自釈迦、彌勒ハ自彌勒、依レ旧」天真自照」道也。照ハ自照列孤明ノ闇昧、印ニ始終、故」道、天真自照」也。曾祖佛不レ許理也。故ニ

謂「吾カ不見時キ、何シ不レ見吾カ不見」処ヲ、見「不見時」キニ見「不」レ能及「ノ」ト、有「レ」曰「ル」ト、若「シ」見「不見」ヲ、自然「非」彼「不」見「相」ヲ、若「シ」亦「不」レ見「吾カ不見」処ヲ、自然「非」レ物「非」レ你、經曰、此句ニ存「三」隱「二」ヲ、真哉、顯存「三」陰「二」付「二」ヲ、何ヲ以テ故、何「レ」不「見」吾「不見」処ヲ、是「處」顯「之」也ナリ。若「シ」見「不見」ヲ、自然「非」彼「不」見「相」ニ、是「顯」一也。若「シ」不「レ」見「吾カ不見」処ヲ、自然「非」物「非」你、是「顯」一也。是「存」三「三」云也。亦「見」不「見」時ヲ、見「不」レ及、是「隱」之「一」也。亦「吾」不「見」時キ、是「陰」一ツ也。是「二」付「二」云也。見「者」ハ「見性」也。見性「ハ」非「吾」非「你」非「物」ニ、真見「ハ」緣「離」レ不「レ」存「内外」ヲ、密付「三」昧也。迦葉「迦」已「前」密付也。阿難「迦」已「前」密付也。釈迦「ハ」自「釈」迦「前後」已「前」密付也。是「真」見性也。後人「後」學「之」見性「ハ」妄見「初」知。不「合」真見ニ、但「爲」レ「因」ガ境「智」ニ、境「ハ」因「レ」智「ニ」ヲ、因「境」ニ、々々「ハ」智「冥」合「ス」レバ、般「若」根「本」智也。境「ハ」實「相」之「真」境也。境「智」一「如」之「時」キ、自「己」真「照」レ、淵「源」ナリ。此「時」キ内外「虚」玄也。虚「空」ノ境也。玄「寂」ノ土「智」也。空ノ境「寂」智「冥」合「ス」ル時「キ」、真「人」之「靈」縱「連」光「印」判「成」。於「是」ハ、有「内外」ノ所「一切」俱「不」レ假「本」位ヲ、含「法」性「海」中「之」珊「瑚」ノ樹ヲ、如「摩」著「上」天「上」ノ月ヲ、珊「瑚」枝「頭」不「可」自「知」ス、一「輪」ノ水「月」不「可」自「知」ス。萬物「皆」本「分」ノ智「光」也。彼「全」ク不「可」自「知」ス、禪「人」能「縱」能「奪」能「殺」能「活」之「手」段也。全「ク」不「可」自「知」ス、心「元」不「自」知「セ」、性「元」不「自」知「ル」、自「知」ハ「現」今「之」所「作」也。真「既」ニ「過」ク、自「性」既「明」了「ス」也。因「甚」麼「二

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

自知。古「乎」佛「道」ニ「ハ」自「知」ラ「学」ヲ「ナ」リ。自「己」ヲ「忘」却也。万「法」證也。證「ト」者「ハ」、自「己」身「心」、他「己」身「心」俱「脱」落。不「レ」見「脱」不「脱」時「キ」、正「心」證「ニ」不「覺」ト、是「真」見性也。師「弟」因「レ」證「ニ」意「句」必「迷」忘「ス」。初「覺」先「參」レ「テ」句「ク」、不「可」レ「參」レ「意」。先「達」ハ「必」ズ「可」レ「參」レ「意」ニ、不「知」レ「所」謂「參」ル「句」者「ト」、不「レ」因「祖」佛「言」教「ニ」、不「レ」拘「古」聖「話」頭「ヲ」、元「來」舌「端」不「レ」觸「底」無「レ」生「之」二「句」子、你「未」学「以」前「通」身「一」句「將」來「シ」テ、全「躰」成「シ」得「ル」、當「頭」是「參」ル「句」ヲ、道「理」也。所「謂」ハ「參」ル「ト」意「者」ハ、透「脱」悟「所」ヲ、著「力」爲「絶」學「ト」、学「ヲ」爲「無」宗「ヲ」。宗「ハ」無「生」体「中」不「思」議「之」妙「性」也。密「々」印「々」定。尽「レ」始「至」無「始」ニ、是「能」始「ヲ」。尽「レ」終「至」無「終」ニ、是「能」終「ヲ」。是「以」レ「佛」法「大」意「也」。窮「レ」之「ヲ」參「レ」意「道」理「也」。意「句」一「貫」ナ「レ」バ、法「性」一「貫」、因「緣」順「熟」、結「菓」萌「發」シ「テ」、時「既」ニ「至」ル。師「弟」一「貫」、眼「目」寥「廓」意「氣」廣「闊」、大「光」漆「通」ノ理「既」ニ「彰」ハ「ル」。又「彰」、又「添」、亦「漆」通「不」會「ト」云「ニ」、有「二」意。時「人」之「著」當「堅」切「ニ」、機「轉」ス「ル」ト、未「曾」有「レ」是「ヲ」曰「漆」桶「不」會「ト、惡」儀也。漆「能」塗「ル」、猶「增」ス「細」ノ光「切」。還「爲」物「不」壞「マ、漆」桶「全」ク「可」シ「如」然「ク」。師「弟」之「煅」煉「復」々「如」是「ノ」畢「ス」。有「時」開「建」立「門」ヲ、有「時」開「掃」蕩「門」ヲ。建「立」門「ト」者「ハ」、出「興」門「也」。掃「蕩」門「ト」者「ハ」、不「興」門「也」。開「ク」出「興」門「ヲ」則「シ」テ、諸「佛」諸「祖」、師「学」實「主」不「レ」殘「ニ」塵「モ、破」テ「ニ」作「三」分「ト」、三「ラ」成「ス」六「ヲ、得」ニ「大」自「在」三「昧」底「ノ」支、法「界」主「分」也。亦「開」不「出」興「門」ヲ、則「シ」テ、祖「佛」不「レ」來、彼「此」不「レ」相「待」、不「名」不「形」、一「塵」不「立」、万「像」吞「光」底「理」、法「界」主「分」也。這「个」二「門」、佛「法」惠「命」嗣「續」ノ道「理、

錯^チ「莫^レ作^ト変相之諸法相^ト」亦未后無^レ支之會、直指不^レ可^レ盡^ル。煨煉日々^ニ可^レ増^ル。師弟^ノ之證明因^ニ心印^ニ煨煉^ル。先後佛一体同真、一如正見、不^レ可^レ許^レ化^ニ、不^レ可^レ弄^ル。自^レ可^レ謂^ル、昔年靈山^ノ迦葉、自^レ釈迦^ノ承^レ向^ニ血^ニ、然^レ付^レ屬^ス。至^レ今^ニ不^レ令^ニ斷絶[、]血脉^ニ連[、]續^ニ來^ル也。世尊^ノ附^ニ迦葉^ニ時^キ去^テ常^ノ法座^ニ、向^ニ良^ノ方[、]嚴飾^ニ密室^ニ、嗣法^ニ合^ニ血[、]堂奧^ニ投入^ス。不^レ違^ニ其^ノ法^ニ者^也。今師弟^ノ嗣法^於堂場^ニ鑑明^イ、大因^ノ大緣^ニ可^レ如^レ法^{。先}使^レ使^レ達^シ之^{。師}堂場^ノ莊嚴^{、如}レ法^ノ鉢鉢^ニ置^レ之^{。至}夜半^ニ、滿^ニ盛[、]良^ノ方^{清水}水^ヲ、棹^上ニ^置レ^之。時^キ既^ニ至^而、或^ハ其^ノ先達^師為^ニ教師^ノ容^レ場^{。若}其^ノ教^ノ無^シ其^レ二^{。師}弟^ノ問訊^而シテ、師^先上^ニ棹^子ニ[、]九^拜而^シテ、近^ニ椅子^ニ、師^以テ小刀^ヲ衝^ニ破^リ剪^テ左手^ノ大拇^指頭^ヲ、亦^嗣子^同衝^ニ破^リ剪^テ右手^ノ大拇^指頭^ヲ、師^子俱^ニ合^レ推^シ兩^大拇^指頭^ヲ、師^ノ右^ノ手^ヲ以^テ搦^ハ嗣^子之[、]左^ノ肩^ヲ、又^テ嗣^子以^テ右^ノ手^ヲ、搦^ハ師^ノ左^ノ肩^ヲ、自^レ兩^方大拇^指頭^ヲ同時^ニ合^ニ血^{。一}滴^ハ入^ル鉢^裡水^ニ、時^キ機^縁順^熟スレバ師^子一^血一^合、指^鉢水^竟不^レ離^離、納^ル水^底ニ^{。然}而^レ後^テ密室^ニ投入^ノ師^弟分^ニ附^ス從^前一^句ヲ^{。如}二^參窮^一、傳授^可知^レ如^レ法^者也。」

次^ニ嗣書^ノ之^判形^之位^{、其}ノ法^如世^尊附^ニ迦葉^ニ、是^ヲ以^テ可^シ正^ニ如^レ法^{。先}師^云、「名字^分テ二^字印^ニ上下^ニ、又^テ嗣子^ノ名字^分テ二^字印^ニ左右^ニ、於^テ中央^ニ印^定。」師^ノ判^形是^正圓^記之^儀也。嗣^唇可^レ如^レ法^{。血}氣^一合^シ畢[、]嗣法^傳盡^シ畢[、]及^テ尽

未來際^ニ、不^レ為^レ法^ノ棄^中捨^レ行^道、特^ニ精^進心^專トシテ、可^レ惜^ニ寸陰^{。悲}哉^ナ可^レ惜^哉、吾^法不^レ可^レ懈^怠正^行行^ハ乱[、]若^シ正^行乱[、]師^弟終^ニ見^レ田^畢、道^理在^リ、不^レ可^レ疑^{。具}誌^佛心^印之^嗣承^者也。」

存佐傳附畢。」

于時慶長拾七年^壬霜月大吉日[」]
金箱入[」]

【史料(9)】義山和尚一枚法語「切紙】

000 峨山和尚一枚法語

義山和尚一枚法語

義山和尚云、到大休歇處、換骨一^句子。鷲^直踏^着、本^有田^地、不^墮古^今、事^物表^獨進^誰能^親、淨^裸々[、]赤^洒々[、]地^絕瑣^賴。自己^ノ真^照淵^源、是^名智^不到^處。可^レ憐[、]墮^在解^脫沈^坑、不^レ覺^寂滅^工夫。欲^得無^上妙^道、此^外更^有超^方一^件。委^悉參^徹看^妙中^有真[、]玄^処有^レ玄^路。是^謂異^中異[、]同^中同^{。鷲}鷲^立雪^非同^色、明^月蘆^花不^レ似^他也。了^々常^智、明^々常^真、依^二那邊^ニ不^レ留[、]不^レ守^閑田^地、時^消息[、]恰^風前^野馬[、]如^レ過^陰裡^一相^似。寶^殿無^人不^侍立[、]不^レ種^梧桐^逸鳳^來。与^麼參^到弁^取。

義山和尚一枚法語、宗門第一、深可^レ秘^々々々。
無^極惠^徹和^尚、月^江正^文和^尚、泰^叟、華^叟、一^州、密^山、

傳授而莫令斷絶。若他門流布。吾門可滅却者也。
總持開山叡山紹碩老人置之。

南室代々今到補秋。

【史料(10)「知死期切紙」】

0100 達磨知死期切紙

兼知死期秘事、達磨和尚之偈曰、

纔覺玉池無滴瀝、トハ、唾テイタ吐クニアワナケレ
ハ、必ス可死スト知。波底眼、コト也。次於波底ニ取ル神
光、トハ、マボシノコト也。無常ハ須臾ニ頭體鼓マ、頭鼓
カス。トモアリ、頭鼓數ヲ得テ數方ニ知ニ幾日カ亡スルコト也。聽
數ヲトモアリ、頭鼓數ヲ得テ數方ニ知ニ幾日カ亡スルコト也。聽
トハ、頂キヲ打テ声ナケレバ、必ス可死スコトヲ知レリ。〽修

行者善慶ノ語曰、大宋國般頭 渡シ守リノコト也。雖レ在リ俗
躰、稱「法号」佛法ニ心ヲヨスル也。云「範勝」トハ、人ノ
名也。通「達磨宗」。道心堅固也。誰モハシクニ傳又也。
即渡テ鎮西ニ欲スレ傳ニ此偈。依レ無下ニ其ノ機ト、コ、テモ誰モ傳
又也。空ク經テ三ノ季マ、於是鎮西ノ陽專 人ノ名也。聖人
問ニ其要。仍範勝道得テ機ヲ傳ニ陽專ニ、々々傳ニ陽圓ニ 人ノ
名也。自忝 已來代々相承レテ之ニ、不レ傳ニ他人。口傳ニ云
先 檢 十二月晦日子時奉レ念ニ無量壽佛宝号。阿弥陀宝号
念佛ノコト也。百返誦之。文聽ニ頭鼓數者、檢ニ明季ノ大小
月日ノ數マ 畢テ展テ二手掩ニ耳。此左右指ノ端ヲ以テ奉レ打ニ頂

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

上。其声似鼓、數日釈 トハ、日カスノカズエヤウ也 打
之。以テ無レ音日ヲ知レ定期。為ニ三度ノ限。頭三度打也。又、
玉池 トハ、唾シテツバキヲ云也。無滴瀝者、不慮得レテ病
唾ニ溢ル口中ニ塗テ指端ニ、見レ之。若シ泡沫無クシバ ト云モ、
タンノアワナキコト也。可レ知レ定期。又波底無ニ神光者、
以テ指端「一」ニ、如シ散星。目ボシノコト也。若不
然者、思ニ定期ト矣。〽範勝云、是定限無レ違。是ヨリ定コ
ウト知ル也。陽專定期無シ違。從レ右始レ之 打ハジムル
コト也。右ノ様ニテ打始ル也。又云、波底トハ、眼也。玉池
トハ、唾也。從達磨秘密々々。

〽知死期法次第。伏以六道衆生、無始已來、沈輪生死、無
量劫ニ煩惱被レ障。不レ知ニ生死ノ本源。知レラ是名ノ佛。迷
レ是衆生云。悲哉、我等者、本住ニ本覺真如都ニ者、無明煩
惱ノ縁ニ被レ誘出ニ已來、三界・二十五有ノ懸レ網ニ、受ニ火血
刀ノ三途ノ悲キ人中天上ノ苦ヲ不レ免。哀哉、我等ノ衆生欲界業躰
不レ斷、未魔苦ニ梵語也。此ニライテ骨節也。被レ迫ニ死ノ本源、
何レ季ノ時キト、不レ知、爰ニ本朝第一高祖傳教大師渡唐之時、
修禪寺道遂和尚奉レ值、此相承シテ知死期ノ法藥。飯朝之
後、我カ山ニ為レ佛法弘行人ノ記レ之云々。忝 此秘法ハ七十以
後ニシテ、非ニ臨終閉眼ノ弟子ニ者、相傳々々不レ受レ之。若シ非ニ
其機、授テ此秘法者、不信問々、三宝佛神ノ蒙ル當ノ罰。可レ
趣ニ三惡道也。仍此秘法可レ信、々々、實此法者、三世、

諸佛、亦祖師先德内證不思議也。可秘々々、穴賢々々、穴トツタ也。爰ニ不定ノ境、何レノ季何ノ月何ノ日何時ト知ハ、或ハ誦レ經誦ニ真言ヲ唱ニ念佛、遮シ惡法ヲ、修善法、只偏ニ發シテ無上菩提心ヲ、出離ノ要道、可レ嚙ノ開悟得脱ノ旨ヲ、此ノ法於レテハ傳ニ者、生死自在無碍也。真實自度ノ法也。於ニハ末法鈍根愚癡者一尤モレ可レ習ニ覺ニ此秘法也。偏ニ不思議也。不可得也。言語道断也。若傳ニ之者、此書行住坐臥可レ隨身也。呼、有レレ由哉。穴賢々々。

〽 知死期法則次第、季末 極月也 晦夜 大ツゴモリノ夜半也 可レ行レ之。先觀音經三卷、次心經廿一卷、次尊勝陀羅尼七返、次慈救咒七返、次火界咒七返、次一字金輪咒七返、次二念佛千返、次二坐禪、然シテ後、金剛合掌シテ後、以ニ兩方ノ手、兩方ノ耳ヲ強ク押テ、去テ後チ讀ニ心經、念佛十念唱、然シテ兩方定惠指以レテハ、初ノ月、一・二・三・四・五・六・七・八・九・十・十一・十二ト打ツ、響音ノ聞也。何レモ同ク如レク敲ノ聞ル時キ吉也。其中ニ不レ鳴月在ラ者、死後ト可レ定。頭敲ノ法ト云事、師弟相對シテ、委細ノ旨、可レ有ニ口傳。聊尔二人不レ可レ示者也。可秘々々。

片岡山 八、京ニ在リ。山ザキ近キ也。達磨大師示ス聖德太子ニ 聖德太子渡唐ノ時達ノ大唐ヲ約束也。日本片岡山牛現ヲ出達給也 知死期ノ頌云、眼光落地ノ大事、在リ是ノ黒光池、「纒」覺ニ玉池ニ無シ滴瀝、指テ波底ニ常ニ取ニ神光。無常須

聽独頭敲、得數正ニ幾ノ日ヲ識ラシ亡ノコト也。
三通在之。睡・睇・眼光・耳鳴是也。
法性平等理偏見起法喜禪悅食飢六道輪迴衆生成就達ノコト也 堅聖教訓藝憑者 是聖德太子達ノ牛現シテ奉レ達トキヲヨミ在ル歌也。法喜禪悅食ヲ、衆生ハクライエ又也。是六道輪迴ノ者也。太子ハ達ノ憑ニ被レ申也。衆生ヲ救ワン為メニトヨマル々也。

達磨ノ返歌也。經文ヲ歌ニ讀ム也
飛鳥都樂天安樂世界不退位轉法輪不絶我本師釈迦大師說法教他日本在。

歌ノ之注脚、法性トハ、佛法ノ言端也。般若之名稱也。一乘三乘之三科、妙法也。平等トハ、覺母ノ能現能照之妙智也。是レヲ平等トハ云也。片岡山者、無キ佛法ノ片國ヲ指テ言也。又、日本ヲ片岡ノ州ト云也。山トハ、有為奥山如堆而沈輪車越渡故、山ト者云也。飯飢者、三界衆生流点、迷情菩提ノ飯飢、難レ至ニ八正直路ニ。沈没五道生死ニ也。六道輪トハ、佛法弘通ノ事也。旅人トハ、一切衆生、我力臥シテ無明長夜ニ覺現也。於六道茫茫トシテ而「キ」也。無祖者、釈尊慈父己ニ入ニ手淫樂ニ、迷々謬ル火宅。我等ノ者、誰「」界六道廣大無邊轉變、無常流点、如ニ車轉。外ニワ更ニ無シ常住不滅ノ躰。又三世覺母ノ大聖、早飯ニ本宮ニ而流轉稚子ヲ、誰力可レ哀。無レ母如レ子。

起首進苦歌云、飛鳥都 日本在。飛鳥都カヤトハ、
 太子過去世ニ轉ニ生玉テ、其時法隆轉寺邊ニ、多生間住玉テ、
 可レ讀、彼者ノ事。安樂世界ノ不退位。絶ト者、一切衆生ヲ濟度
 スルヲ、富トハ讀也。濟度シ助ケントスルニ、流点生死ノ水、
 更ニ絶者、自レ古至レ今云心也。我本師 在トハ、覺母、
 智公ニ慈悲ラ心ニ發スル也。利益衆生ノ道ヲ相義シテ、離ニ覺母智
 及ニ濟度ニ故、衡山ヨリ飛來玉テ、於ニ日本國ニ弘宣コトテ、佛法
 紛諾シ訖。達磨先在ニ出現玉テ我朝ニ故ニ、争可レ忘ニ御名ヲ者、
 詠玉ヘル也。

大和州片岡山達磨寺 葛十群此郷山直^{タイ}村

日本^ハ西來^ハ十一月十五日、入滅臘月一日也。

方和尚傳正岳乾傳方和尚、夫々嫡々相承^而今正鎮傳實和尚即
傳正盛也。

今附傳正紹^公

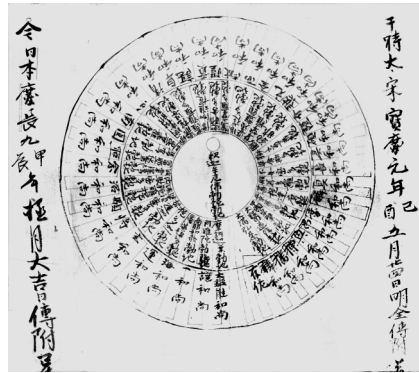
前永平大安現住安室正盛老衲(花押)

于時慶長八^{癸卯}季八月二日書之了。

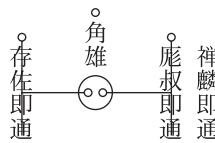
【史料(11)「一条紅線」切紙】
0011「一条紅線」切紙

(血脈円相右)

于時大宋寶慶元年^{己酉}五月廿四日明全傳附道元御在判



(中段、血脈円相下部)
臨濟命根元不斷



一条紅線引手中

(血脈円相左)

今日本慶長九^{甲辰}年極月大吉日傳附畢沙門存佐

(下段)

佛祖以来代々嫡々相承来如^レ斯。吾今授存佐伝附^レ既畢。

汝能護持シテ、尽未來際、勿令斷絶。嗣法嫡子一人之」外、不可傳附者也。」

昔靈山・少林・曹溪之古風ヲ連續之舉、臨濟義玄和尚在テ黄檗會中ニ、行業純一也。於テ六十棒下ニ、得ニ無生忍ヲ。於テ斯ミ、立ス八種面目。」汾陽禪師、有時示衆曰、先師臨濟和尚、有ニ八種面目」。一ハ者本分、二者ハ、自性、三者色相、四者直示、五者為レ人、六者機、七者賊、八者正。吾ガ門、為ニ種草者、切ニ須ク如レ是面目ヲ具足ス。諸禪德如何具足ス八種面目ヲ。便一喝云、參。」

夫八種面目者、林才和尚、在レ黄檗棒下ニ開ク正眼。是則チ本分未生」以前、本身也。於テ大愚ノ脇下ニ築ク三拳、得ニ本分事ヲ。自性識破シテ、販リ来テ、与レリ一掌ヲ。是則チ一機ノ發処也。從レリ此色相ヲ具足シテ、而、於テ此土ニ立ス本分事ヲ。是則チ「色相・本分也。色相者、五蘊界也、六根・六識・六境界也。是則、三六十八」界云レ證シテ、是為レ悟ト。是レヲ不レレラ證為レ迷ト。為レ人、第二義門下ニ、垂手接物、隨レテ機ニ說法。直示者、本分無一物」処、行業純一」処ヲ示ス是也。機ト者、「一機ノ發処、本分事也。以テ是レヲ行レ棒行レ喝、把住放行、剝活自在、有時、拈シテ一莖草ヲ為ニ丈六金身ト、有時、取テ丈六金身為一莖草ト、是」則機ノ受用也。賊ト者、一機ノ働也。喚レシテ僧ヲ為レ賊、喚レ俗為レ僧。正ト者、「本分」事也。元來山高ク海ハ深ク、柳ハ自緑花ハ自紅也。鳥不レ染黒、鷲」不レ洒白、根本」性也。是三

関ト者ハ、機・賊・正(性カ)内ニ、三世俱ニ備レ、三世俱ニ陰ル者、」向上下、此」内也。面目受用、面目放下、能々參徹而可識」授之者也。」必々嫡子一人ヨリ外容易不可流布者也。」

謹九拜去。」

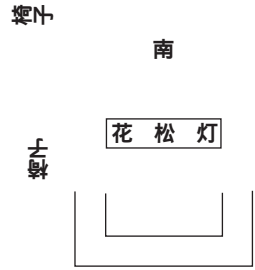
臨濟曹洞兩派連續者、此義不レ違者ハ、恐ハ救世ノ難シ成リ導師ト云云。」

【史料(12) 小儀式(仮題、断簡)】

0012 小儀式

(前欠)

次道場則チ取ニ取之ヲ。次至後朝五更ニ上レ方丈、到ニ無住之拜ニ。惣シテ言ハハ無住之拜ト、無ニ師ノ命ノ程ト、不レ知ニ數量也。受」レ命則無住、言ハハ有住之拜ト、此特ニ必ス為レ是也。」只則其夜請シ畢テ後、監ニ師処ヲ為此時當ニ、共ニ五拜則住」令ニ聊如レ是。

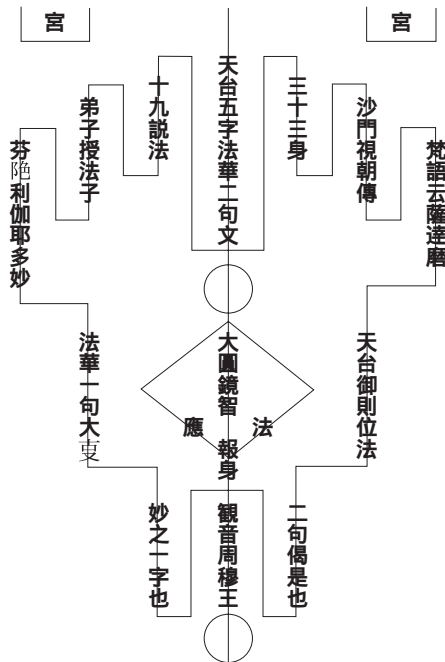


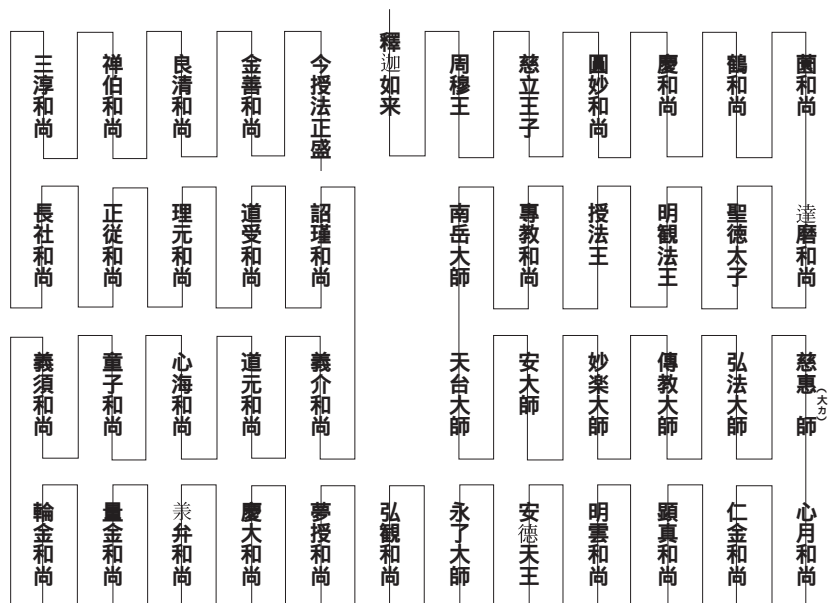
一番地絹
 二番血脉
 三番紙
 四番袋唐錦
 正紹九拜
 正虎拜

六尺梅之紋
 地絹同
 如血脉可量之
 表裏二人

于時慶長甲辰季霜月吉日
 前永平大安山主 安室正盛(花押)

【史料(13)「天台五字法華二句文」切紙(仮題)】
 013天台五字法華二句文切紙





「血脉下」

示^二善法子^三云、中比百八十四年者、中央大日如来^一、示^二東方大圓鏡^三者、中葉王菩薩、葉上菩薩、^一示阿闍如来、南方觀音平等性智、虚空藏、宝勝如来、示西方妙觀察智無量壽佛、^一北方示成所作智者、釋迦如来示多門・持國、^一增長・廣目現一切法界虚空藏就佛。此^ハ之^レ二句偈等之因縁也。一七日間行^一、授帝王、奉授時、道場入事唯二人也。御劍持庭上^二不登、以金蘭^三齋^ヲ其上^一、黃紙深^ク齋。在不信者、末法時百八十四年、可断絶。能々奉守護帝王之寶物也。^一

于時慶長十歲乙巳三月如意珠日傳授之。

前永平大安三世安室正盛叟 (花押)

之

【史料(14)「切紙総目録」】

0014「切紙総目録」^(紙脈力)

宗門一大事數量^(紙脈力)切目録

七佛傳受儀軌、圓相勃陀圖、天竺一枚紙、卵形未分圖、自家之訓訣圖、佗家之訓訣、作相切紙儀軌、普門相承圖、普門血脉、大魔之秘圖、三星之圖、上來話同圖、血脉書作法、旦望佛殿礼、滿字書同切紙、了畢判形之圖、同堪忍^(書力)之、拈華之圖、嗣續物之圖、嗣法之書、大義軌、小義軌、夜參^(書力)般血脉、嗣法合血之抄、永平坐具文、竹籠拂子切紙、峩山一枚

法語、空盡書、迦文勒三説、道元一坐記、拈花十三則切紙、曹洞三主君、訓訣始終、文珠手裡劍、門訊之圖、^(門力)祝聖之切紙、大悟圖切紙、血脉記基、太白峰之記、宋西記文録、^(亮方)應身録、拾則正法眼、竜天勘破話、達磨知斯期、佛知斯期、^(亮方)梅華書切紙、松竹梅切紙、傳語之判形、寶鏡三昧、釈迦判形、^(亮方)達磨判形、八句之切紙、三寶印圖、三寶印切紙、宝瓶拄杖白拂圖、^(亮方)露柱之切紙、道場莊嚴儀軌、室中洒水作法、竜天之血脉、龍天授戒、^(亮方)國王授戒切紙、國王授戒作法、十八般之妙語、椅棹莊嚴切紙、戒文授戒作法、^(亮方)三滲漏之書、五位之圖、嗣書燒却圖、同切紙、居士嗣書切紙、^(亮方)三國流轉切紙、正法眼血脉、達磨傳法偈、永平蜜語、血脉包之次第、^(亮方)俱胝一指話、焼香之儀軌、七堂之圖、嗣法血脉圖、心王主三昧、^(亮方)陰身三昧、嗣法論、達磨之歌、生死事大切紙、小蔵之誰切紙、^(亮方)安樂之圖、錦囊之圖、袈裟囊圖、那時之三人圖、曹洞機之大事、^(亮方)摩頂三謹、菩薩戒之作法、頂門之眼、一中十位、涅槃之作法、^(亮方)一句之切紙、三界之圖、山神授戒切紙、水神授戒切紙、住吉五个条、血脉之鉄漢、命脉之一点、取骨之切紙、^(亮方)十戒之切紙、衣鉢血脉作法、^(亮方)曹洞之旨記、五大老切紙、白紙切紙、心水枕之切紙、鎮守白山切紙、^(亮方)一返消災呪切紙、山門之切紙、合判之大事切紙、性之參、同灰之參同大事、^(亮方)曹洞之二柱、作無作參、樹上之切紙、万機休罷切紙、日當始末、^(亮方)圖覺再虛、六外之一句、不誰之機縁、夜參廿七透因縁、

入棺之作法、^(亮方)山居之圖、最極無上切紙、天童永平江度之、^(亮方)三悟道切紙、^(亮方)子狐之切紙、那時洩底切紙、^(亮方)以上百廿通也、

【史料(15)】「印證之一紙」切紙

0012 印證之一紙切紙

(端裏) 印證之一紙

箭應示英歎恕

歎恕示授

歎恕示誰

懷散記

印

同傳授之

投子青威音前一箭

師云、誰家曲 嗣様ヲ。学云、獨テ走。

師云、洞家ノ嗣様ヲ。師云、獨^(亮方)時^(亮方)キ」 嗣^(亮方)タゾ。学云、

妙^(亮方)テ走。師云、威音前^(亮方)一箭ヲ。学云、毘盧ノ一印^(亮方)テ走。師

云、^(亮方)盧 印ヲ。学云、借^(亮方)位全露^(亮方)法王^(亮方)心^(亮方) 星前人臥^(亮方)千峯^(亮方)臺、

仏祖伊識^(亮方)得無由。師云、兩重ノ山ヲ射通シ様ヲ。学云、身

心^(亮方)相合大相^(亮方)投^(亮方)ス。師云、相付底ノ事ト問バ、全 照得ト

被^(亮方)仰^(亮方)タ幾ヲ。学云、洞上一脉不断如糸ヲバノ句ヨシ。」根

基牢實、血脉貫通、金鎖連環、相續不斷。師云、恁麼入水
見、此意」ヲ。学云、落。師云、祇。辨セント云タキヲ。
学云、七佛已前通血脉。師云、畢竟ヲ。学云、月裏無根草、
山前枯木花。私、威音王。已前」ニ放ヲ箭シリカ、今日ニ至
ル迄テ許サヌ。毘盧ノ一印ト云箭サキデサ、ヘタソ。」

印證之一紙也。

存佐九拜

毘盧之一印ハ、法王之命脉也。

【史料(16)「大儀規」切紙】

0016「大儀規」切紙

一七日也。血脉」上」圖相ハ、佛祖」機関云、自己本分田地、又ハ
人々」本居也。又祖佛道場ヲ云。三世諸佛、歷代」祖師、從
此流」出。然間、從」釈迦」以來、天竺二十八代、唐土六祖、
至」愚僧」血脉」者、譬」如」俗方」系圖」。此圖相、當頭」識得
無」地獄」途恐」。是」不」知者、凡夫」云。悟了」レハ」得永不
失。可」奉」懸様子、先」以」五色絲、拘纏也。是則表」木火」
土金水・地水火風空」ヲ。五智如來・五蘊・五力・五眼・五大
明王・」五大菩薩、如」此形間、更」天魔波旬」全」無」所」窺」
者也。次」絲長」一丈二尺也。表」一年十二月、或」八十二神、十
二」因縁、更」無」怖畏」所」。次」九穴」拘纏中、七穴表」北斗
七星」ヲ、又上下兩端穴、日月・天地・兩眼也。合則」表」二十八

界」ヲ。次血脉」上」以」錦」ヲ可」シ裏」。次様子、七重也。此」時」除
七難」内」生」七福」為」也。若又五重則表」五臟、五々二十
五菩薩」ヲ。若」三重時ハ、欲界・色界・無色界、三界間、無」所」
怖畏」。若安」ク二重」ノ、則」ハ」除」ク夫妻」ヲ、不淨難」全」不」可」レ在也。
次錦」ノ色」ハ可」レ赤」カ、其」故表」日」ノ月光」。曹洞家之秘傳也。
生到來」モ亦如」レ此書之。

于時慶長拾三年申戌三月吉日

龔奉血脉疏

釋氏存佐九拜

【史料(17)「国王授戒切紙」】

0017国王授戒作法

「国王授戒切紙(端裏書)

国王授戒作法

若」在」内裏」奉」授者ナリ

国皇御座」左東西向、設別椅教授

授戒用」ニ座」ヲ以」テ

一」師」作法奉」授。禮數如」常

又」如」常人奉授事在」レ之。信心」無」ニ」而或」ハ御入。寺受

戒時也。縱雖」寺中、

國皇御座間」ダ、去方丈、為」御所、每柱」以」テ黃紙」畫龍押之。

住持」下庫下寄」宿、不」奉」同宿也。相見時、居」實位」ニ。授戒

時纒外

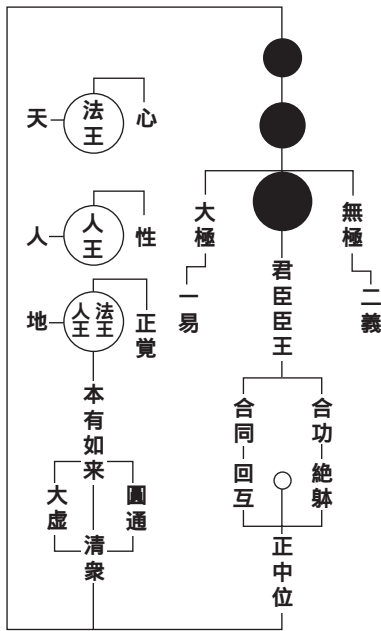
左右大臣帶御劔ヲ劔シ。沙門存在九拜

于時慶長十四日四季極月廿日

【史料(18)】「祝聖之一句之大事」切紙】

0018「祝聖之一句之大事」切紙

「祝聖之一句之大事」(端裏書)



無量壽佛、修成如來、本有圓成、聖王、三身即一身。
 本尊之御眼与住持双眼、眼々相對、本尊之御心与住持心、心心合。住持左手者法王、右手者人王、是即天人也。
 合掌則、佛法王法一致也。維那左眼与本尊之左眼相對。

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

可也。依而此儀、中央從、東班侍立而祝聖ス時ハ、卯辰之刻也。衆僧合掌、口傳有也。參禪之事、別辛苦故、別紙記取ニスル也。畢竟者、祝聖一句ト云ハ、沈又一氣、宗門相續之大事ニ在之。焼香姿肝要也。
 右此圖、不レ可レ外見、一人二八伝授也。年代深遠ニシテ、護持保任ニ而猶可レ得也。

于時慶長十五庚戌三季月吉日(花押)

前永平安室盛叟

花叟一派之大事、附与紹首座虎首座

【史料(19)】「龍天看經目錄」切紙】

0019「龍天看經目錄」切紙

(内題)

龍天看經目錄

先向龍天白山、坐レ具大展而九拜之内、偈唱云、護法龍天、道心堅固、九返。
 次、一坐具之中、坐而、叉手當胸、

心經 三卷

消災咒 七返

龍天咒 廿一返

所願成就咒 廿一返

唵バザラヤソワカ

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

其外之咒願ハ可レ依ル 龍天本尊^一。

滿散坐禪 一坐

次^ニ彈指^{シテ} 豎^ニ一指^ニ云、我^レ 得^テ天竜一指頭ノ禪^ヲ、一^ニ生受
用不盡 三返

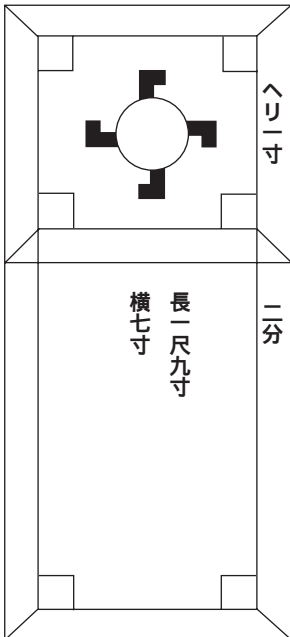
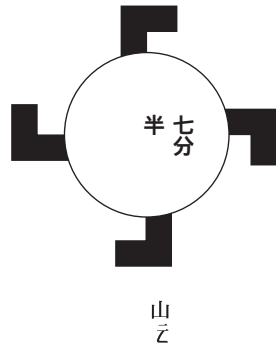
起坐三拜之時、所願成^ル 就、皆令滿足^ト 三返唱、^ル 畢竟^ハ擲^而去^ル。

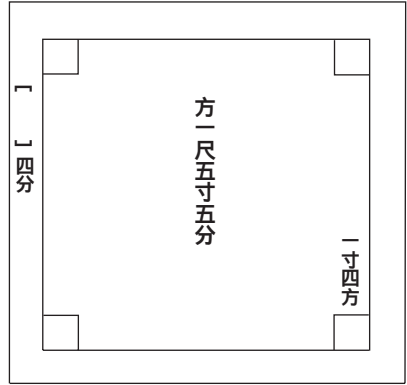
皆寬永貳天^乙 五月如意宝珠日

多宝山大淵刹叟記

傳附嚴朔禪伯

【史料(20)「袈裟裏圖」切紙(仮題)】





袈裟囊圖樣 日本初祖

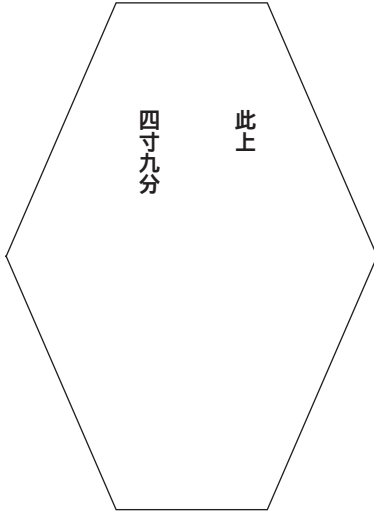
永平和尚自縫袈裟囊

圖式、法普崇書記軌道

如法頗慕

古聖遺風給之

間贖許之



九分

皆貞和二年 丙戌 仲春六日

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)

【史料(21)「洞山五位總頌」切紙(仮題)】

0021洞山五位總頌切紙

洞山五位總頌 大陽玄頌云、無中有路透長安 漫々。心得難_レ為_レ、畢竟此頌テ、五位方聞ユル也。師云、無中ヲ。代云、極位テ走。師云、極位ニ路_テスチワ在ルマジイガ、有路ト云ワ、何ニタル路チステタゾ。代云、陰ト犯セバ、陽ノ路チテ走。師云、透_リ長安ニ様_ヲ。代云、陽ト犯セバ、陰ノ路チステテ走。私云、無中ワ、極陰正中也。長安ト云モ、無中極陰ノ処也。無中ニ有路トワ、正中ヨリ偏_エノ路ナリ。亦長安ニ透ルトワ、偏中正也、ト云テ、正位ニモ偏_レ位ニモ、トツチニモ對立セス、落居セヌゾ。爰ヲ活心ト云タゾ。サテ、落_レ居スルワ、死処タゾ。落居_レ無イ時キ、曹洞掣電ノ機也。師云、却外ノ靈枝ヲ。代云、伊レテ走。師云、誰敢攀ヲ。代云、佛祖伊_レヲ識得スル_ニ無_レ由。心得ワ、中ト云イ、伊レト云イ、主ト云ワ、一位タゾ。正位ニモ偏位ニモ、久遠ニモ今時ニモ、的位落居セヌゾ。時キ、誰_カ敢_レ攀_タソト云ワ、ヨチヌコトタゾ。時_キ佛祖モ識得セヌゾ。亦却外_レワ、此ノ圖也。亦靈枝トワ、○是也。爰_エ来シタガ、正中ヨリ来_レタト見レバ、今時ニハ出ヌゾ。時来_ニ来相無_イコト也。今時_ニモ久遠_ニモ、中ニモ的位セヌコトダ。時キ、誰_カ攀_タソ。亦霜眉雪鬢火中_ニ出_ツ、當堂終_ニ不_レ墮_ニ今時_ニト云モ、爰ノコト也。霜眉雪鬢_トハ、今時_ニ出_ガ、白髮シタコ

トタゾ。火中トハ、正中来也。正中来「ワ、理」卦也。是也。火也、心也ト云タゾ。畢竟正中来ノ事也。有ルガ、正中ヨリ来シタト見レバ、来相無イコト也。時キ、當堂不終、今時墮又コト也。師云、宝殿 三更 漫々ト云タル幾ヲ、兩句ヲ一句。代云、宝殿蒼生タカトスレバ、尊貴盛々々々盛「スレバ」「カ」亦紅日、カトスレバ、亦黒漫々自生死至迄テ、落チ付キワ走ヌ。心得ワ、寶殿蒼生スト云ワ、人消足至ラ又地也。無功地也。父位也。尊貴ワ、功作也。兼中至ノ修行也。畢竟偏ニモ正ニモ、三更ニモ江月ニモ的位セス、落居セ又ガ肝要テ走ゾ。伊ト云イ、主ト云モ、中ノコト也。極マレバ変シ、変スレバ極ワマル御家タゾ。畢竟掣電機ト心得ベシ。師云、畢竟ヲ。代云、曾不識。師云、曾不識トキ如何。代云、先聖モ亦不識キ。心得 此中到テ、ワ、更ニ的位承當無キ也。我ワ云ニ不_レ及、先聖モ万達モ不識タゾ。サテ、向ソト承當シテワ、此話落第ニナツタコトヨ。大源門戸デワ、秘參也。

付与存佐禅老

隆谷叟(花押)

【史料(22)「一本剣之切紙」】

0022 一本剣之切紙

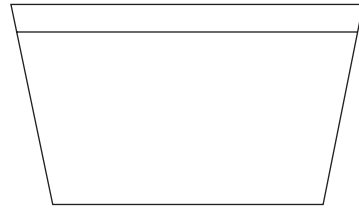
「一本剣之切紙」(端裏書)

一本剣ツマル時キ、垂示ニ蛇八鉄キヲ忌ム者ナガ、何ソトテ蛇ノ尾ヨリ、劔ヲバ取ツタゾ。アレ共、鉄氣無キガ、一个吹毛劔タゾ。何ト云モ、鉄氣ノ間、サヒタゾ、ハギレタゾ、金サカイタゾ、ト嫌也。代、トツクト坐ス也。心ハ、此時キ一本劔デサ、ヘタゾ。師云、吹毛劔ヲ。嫌道ハ、始ノ如ク也。代、如前也。師云、答話幾ヲ。代、三百六十骨節、八万四千ノ毫竊。師云、劔磨羊ヲ。代、身ホコリヲ吹拂ウ羊ニ手拂也。始ノ如クノ処ヲ全提ト持テバ、サヒナルゾ。呈拂ウ也。爰ガ一个吹毛劔也。

陽陰

伊勢二字之口傳

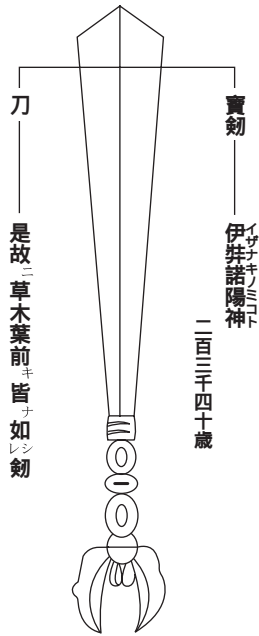
天地



神筒

筒也

天地未分時^キ管^ハ蓋^ラシタル様也 天^ニ禰^レ七^ノ代也



寶劔

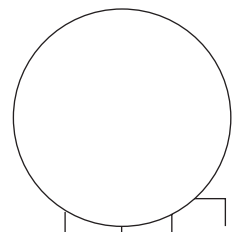
伊弉諾陽神

二百三十四歳

刀

是故^ニ草木葉前^キ皆^ナ如^レ劔

林下曹洞宗における相伝史料研究序説(四)(飯塚)



伊弉冊尊隱神也

内志処

鏡也^ハ万象皆木移^ス故^ニ男^ノ影^ヲ移^ハ其^ノ形^ヲ孕^ム也

圓相^ハ八海^ノ之^ノ形^ヲ也^ニ一圓^ヲ支^テ内證^也滿^ル月^ノ跡^也

天德寺玄廣和尚ヨリ

寛永六年卯月廿八日

【史料(23)】「佛祖正傳法」切紙

0023「佛祖正傳法」切紙

佛祖正傳法

參禪^ハ須^ク累^ク功^ノ經^ニ卒^ニ心^而曹洞^之家風細蜜難^シ并^ニ守^テ大功而^{シテ}復^ハ合^ハ大功^マ此^ノ旨^ヲ并^テ取^テ護^テ持^テ者^ハ自^ラ然^ニ合^ハ封^ハ右^キ如^シ件是^レ引^レ而^テ云 良田万境日^ニ一^ニ体^ヲ食^ス大家千間夜眠八尺

皆寛永十一^乙亥^乙季^乙八月廿八日

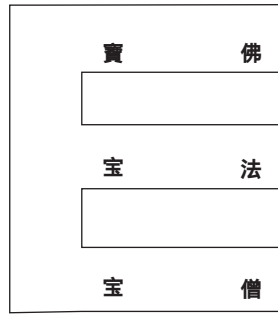
正祝首座与奪

(花押)

【史料(24)「印證之一紙」切紙】

0024「印證之一紙」切紙

印證之一紙



横枝曾不_レ可有者也

存_レ示正祝_二是_二推スヲ

師法印ト云也

正祝授道心_二是_二推ヲ傳授

印ト云也

正祝示ト云処_二ヲスヲ順逆無

碍ノ印ト云也

懷救記同傳受之是_二ヲスヲ

(_{原力}再)極無上ノ印ト云也

三宝印也

謂之順逆無碍之印

參 師云、印シ羊ヲ。代、佛祖未生空劫_レ前キテ走。師云、三宝ヲ。代云、「佛法僧。師云、其_レヲ返セ。代、僧法佛。心ハ、宝印ヲジツト推シタ処ハ、佛_レ祖未生空劫前也。佛ケ未夕摩耶ノ胎ニ出テヌ処也。

○ 此ノ一位ノ事也。ソコヨリ佛法僧、一易二儀ト始マレリ。尺迦牟尼佛_レヨリ道心妙心トツリツ、ケテ、亦尺迦ノ頂キエツリツ、ケタゾ。

處力僧法佛也。ホトニ、順逆無碍ノ印ト号ス。

三宝印ヲ推ス心口ヲ。代、南無歸依佛、歸依法歸依僧。私云、

右_レ手_二テ朱ヲツケ、左_レ手_二テ推セバ、十文字也。十字圓滿シテモレタ者ハ、ナシ。豎_二三際ヲ窮メ、横_二十方_二巨ル。

○ 是也、又手_ス也

于時寛永十二_乙九月吉日

正祝拜

【史料(25)「本命元辰切紙」(仮題)】

六淳星者、上_二假諦云、六者路也、六根數量、假_レニ相成間

六淳云也、曲淳星者、中上下諦、曲者_レ屈_メ自在_{ナル}故_ニ於_ニ諸

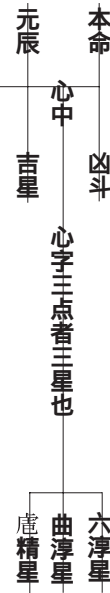
法_ニ應物現形、實体中道實相_ノ一理也。從_二一理_一起_レ空假

云_二三觀也。又從_レ中_ノ一人、守上一人_ヲ起_レ公卿殿上人_ノ万

民_一、此一星也。故中道一理、為_レ一人_一星也。合_ニ空假中_ノ三

諦、一心三觀云也。此三合一心也。

虛精星者、下_レ空_三諱云、虛萬人共、畢竟皈_レ空故也。只_レ云本居也。



曲一点二月合而一心_ト成也。中道實相之一理_ヲ悟了、自己一月_ヲ明了也。一心云_三本居_{一ト}也。中道一理也。悟_三虛無自然道_一、天地_レ間_二生_レ一、々生_レ二、々生_レ三、々生_レ万物_ヲ也。又生_三三者_一、上_レ一点者、天也、下_レ一点、地也。中_レ一点者、中_レ一人也。元氣未分、混而為_レ一、兩_レ儀_ト、清_ヲ為_レ天、濁_ヲ為_レ地、混沌未分、田地也。是_レ生_{一ト}云、生_レ二云、陰_レ陽分、天地_二儀分也。亦天精下_レ地、々精上天、生_レ人躰、是_レ生_レ三_レ云也。故_三天地人三合出_レマ、生_三万物_二間_一、天地同根、万物一躰云也。諸佛本源、衆生_レ根本也。此_レ根本、々居一也、一理也、一氣也。万物一躰之時、一主人也。是者、絶芳派大事可秘者也。

于時寛永十三五月吉日

正祝九拜